

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業振り返り（授業アンケート）」への教員コメントの入力を推進した。</li> <li>学部（学類）生（1～4 回生）の単位修得状況を保証人へ連絡するとともに、成績を把握することで学生に対する個別指導に役立てた。</li> <li>複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。</li> <li>卒業研究の実施内容等の改善のため、教員会議および委員会で議論を行い、その情報を全教員で共有した。</li> <li>2022 年度の GPC 成績一覧表を教員会議内で開示し、最適化に向けて情報共有を行った。</li> <li>著名な研究者を招聘し、獣医学専攻教員・学生の知識向上のための集談会を実施した。</li> <li>獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの飼い主様への対応を向上させるための研修を実施した。</li> <li>獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの臨床技術を向上させるために OPUVMC セミナーを実施した。</li> <li>獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して生命倫理と安全管理に関する研修を実施した。</li> </ul>		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
6 月 24 日	獣医学研究科新任教員研究発表会 ・肝転移における肝類洞内皮細胞の役割：細胞間相互作用機構の解明（松原 三佐子 准教授）	30 名
6 月 30 日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40 名
7 月 15 日	サイエンスカフェ at りんくう（大阪湾と実験室をむすぶー動物の昔と今を照らす DNA 情報研究）（国立遺伝学研究所 工樂 樹洋 教授）	26 名 （オンライン参加者数不明）
11 月 26 日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40 名
12 月 15 日	獣医学研究科集談会（2 本鎖 RNA を感知する自然免疫システムの新たな展開）（大阪大学医学系研究科教授 河原行郎）	40 名 （オンライン参加者数不明）
1 月 6 日	オープンセミナー（持続感染ウイルスの病原性とその治療法の探索）（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 田知之 教授）	15 名 （オンライン参加者数不明）

1月20日	第2回医学・獣医学連携セミナー ・腸内細菌関連物質の肝移行によるがん微小環境形成（大谷直子教授） ・Dysbiosis 関連疾患の治療法の開発（植松智教授） ・近未来の直腸癌治療（前田清教授）	40名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
学部・学類教育運営委員会	カリキュラムおよび授業実施方法等に関する検討(第1回(8月17日)、第2回(12月19日))	9名
CBT運営委員会	CBTの実施および運営に関する検討(第1回(12月1日))	7名
図書委員会	コロナ禍での図書館での自習室の管理および運営に関する検討(10月24日)	6名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組(但し、成績GP分布関連は次項に)		
特になし。		
5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
2022年度のGPC成績一覧表を教員会議内で開示し、その目的や意義等を再度、説明し、最適化に向けて情報共有を行い、改善について意見交換を行った。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (46)人		
・所属内の専任教員の人数 (46)人		
7. その他、追記事項		
<p>・卒研検討委員会(委員9名)にて、5月の獣医学演習の実施、そして12月の卒業研究発表会および学生の発表内容等について改善を図るために意見交換と討議を行い、その内容を教員会議で情報共有を行った。(第1回4月11日、第2回4月15日、第3回4月21日、第4回5月6日、第5回5月14日、第6回5月18日、第7回5月21日、第8回6月5日、第9回8月18日、第10回9月30日、第11回11月5日、第12回12月2日、第13回12月17日、第14回1月17日)</p> <p>・OSCE委員会(委員16名)では、2022年度のOSCE本試験の実施およびこれに向けた実習の改善と審査を担当する教員の訓練の実施等について、検討を行った。具体的には、コロナ禍のために対面での会議はせず、メールや電話連絡による打合せと情報共有等を頻繁に行った(2月の本試験の前、11月～2月に40回以上の打ち合わせを実施)。また、これ以外にも、各試験分野の実施内容について</p>		

分野責任者が全大学の責任者と直接やり取りし、委員会で情報共有を行った。